

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(全体)

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること(教養)。	(SC-1) 情報技術が自然および社会に及ぼす影響や効果を理解し、情報処理技術者が社会に負っている責任を自覚すること。	(b)	◎	「情報職業論」,「電子情報工学特論」(30%),「電子情報基礎演習」(10%)の評価を満たすことで、情報処理技術者が社会に負っている責任を自覚していることを確認する。
社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること(教養)。	(SC-2) 文献や種々の情報媒体を利用して情報を集め、自主的、継続的に学習できる能力。	(e) (g)	○ ◎	「電子情報工学特論」(20%),「電子情報工学特別演習」(25%),「卒業論文」(25%)の3科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、情報収集能力、自主的・継続的学習能力を確認する。
社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えていること(教養)。	(SC-3) 歴史や文化、経済、価値観などに関する知識に基づき、自分自身の文化や価値観、利益だけではなく、地球規模で他者の立場から物事を考えることができること。	(a)	◎	人文科学系列の2科目と社会科学系列の2科目を含む合計6科目の評価をすべて満たすことで、歴史や文化、経済、価値観などに関する知識を習得し、それに基づいて地球規模で他者の立場から物事を考えることができることを確認する。
情報通信技術の基礎を理解すること(専門基礎)。	(SA-1) 数学と物理学を中心とする自然科学についての基礎知識を持ち、実際の問題に応用する能力。	(c)	◎	「微分積分Ⅰ」,「微分積分Ⅱ」,「行列と行列式Ⅰ」,「行列と行列式Ⅱ」,「情報数学」,「情報系のための確率・統計」,「力学A」,「力学B」,「物理学実験」の9科目の評価をすべて満たすことで、数学と物理学の基礎知識を習得しそれを応用する能力を身に付けたことを確認する。
情報通信技術の基礎を理解すること(専門基礎)。	(SA-2) 電子工学、通信工学、情報工学の基礎を幅広く理解すること。	(c) (d)	○ ◎	「電気回路Ⅰ」,「電気回路Ⅱ」,「電子情報基礎演習」(65%),「基礎電気磁気学」,「論理回路」,「電子情報工学実験」,「プログラミングⅠ」,「プログラミングⅡ」,「プログラミング演習Ⅰ」,「プログラミング演習Ⅱ」,「情報理論」,「オペレーティングシステム」,「計算機ネットワーク」,「マイクロコンピュータ」の14科目の評価をすべて満たすことで、電子工学と情報工学の基礎を理解していることを確認する。
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SA-3) コンピュータシステムとシステムプログラムの原理や構造を理解し、その設計や実現を効果的に行う能力。	(d)	◎	「計算機工学Ⅰ」,「データ構造とアルゴリズムⅠ」,「データ構造とアルゴリズムⅡ」,「オートマトンと言語理論」,「情報工学実験A」(25%),「情報工学実験B」(25%),「データベースシステム」,「オブジェクト指向プログラミング」,「ネットワークシステム」,「情報セキュリティ」の10科目の評価をすべて満たすことで、コンピュータシステムとシステムプログラムの原理や構造を理解し、その設計や実現を効果的に行う能力を習得したことを確認する。
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SA-4) 画像処理、音声処理、自然言語処理、知識工学などコンピュータ応用システムの基礎を理解すること。	(d)	◎	「知識工学」,「画像処理工学」,「自然言語処理工学」,「音声情報処理工学」から最低2科目と「情報工学実験A」(25%),「情報工学実験B」(5%), の評価をすべて満たすことで、コンピュータ応用システムの基礎を理解していることを確認する。

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SB-1) 社会の要求を解決する情報システムをデザインする能力。	(d) (e) (i)	◎ ◎ ○	「情報工学実験A」(25%)、「情報工学実験B」(50%)、「情報処理システム開発」、「電子情報工学特別演習」(25%)、「卒業論文」(5%)の5科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、社会の要求を解決する情報システムをデザインする能力を習得していることを確認する。
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SB-2) 論理的な文章の記述や口頭発表により情報システムを説明する能力。	(f)	◎	「電子情報工学特論」(20%)、「電子情報工学特別演習」(25%)、「卒業論文」(25%)、「フレッシュマン・イングリッシュ I, II, III, IV」, 「インターミディエイト・イングリッシュ I, II, III, IV」, 「第2外国語 I A, I B」の13科目において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、論理的な文章の記述や口頭発表により情報システムを説明する能力を習得していることを確認する。
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SB-3) 与えられた制約の下、情報システムを構築するために計画的に仕事を進め、まとめる能力。	(e) (h) (i)	◎ ◎ ○	「情報工学実験A」(25%)、「情報工学実験B」(20%)、「電子情報工学特別演習」(20%)、「卒業論文」(20%)において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、与えられた制約の下、情報システムを構築するために計画的に仕事を進め、まとめる能力を習得していることを確認する。
ソフトウェアおよびハードウェアを含む情報システムを構築できること(専門応用)。	(SB-4) チームで相互評価と相互支援を行い、計画的に目標を達成する能力。	(i)	◎	「電子情報工学特論」(30%)「電子情報基礎演習」(25%)と「プロジェクト型ソフトウェア開発演習」、「電子情報工学特別演習」(5%)、「卒業論文」(5%)において、この目標に該当する評価をすべて満たすことで、チームで相互評価と相互支援を行い、計画的に目標を達成する能力を習得していることを確認する。